

いこい通信

復刊
第3号
2018年12月

発行 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

「いこい通信」は、宮城県内で避難者支援にあたられている方々に、福島復興の現状や福島県外避難者の置かれている状況、宮城県内における支援活動の様子等をお伝えする情報紙として発行しています。自らの意思に反して、全国への分散避難を余儀なくされた方々が、避難先で適切な支援につながっていくための一助となることを目的としています。

■ 福島県から避難されている皆さんのサロンを開催しています（その1）

当コンソーシアムでは、福島から宮城に避難された皆さんが日常的に交流を深めることができる場をつくるため、誰でも気軽に参加できる「ふくしま仙台駅前サロン」を2018年5月から定期的に開催しています。サロンの様子をシリーズで紹介します。

サロン「ちぎり絵教室」は、双葉郡浪江町出身で、震災時には南相馬市小高区にお住まいだった猪狩良子さん（今は宮城県内にお住まい）を先生にこれまで3回開催されました。



2018.6.6 先生の紹介

ちぎり絵の材料には新聞紙を使います。先生がお持ちになったお手本（それぞれの季節の風物がテーマになっています）を参考に、新聞のカラーの部分を取り取り、のりで貼っていきます。

最初は皆さん手探りで始まりますが、徐々に手馴れてきて、毎回きれいな作品ができます。

新聞記者の方も「新聞にこのような活用法があるとはびっくりです」と驚かれていました。



2018.7.18 作業の様子

作業の後には、食事やお茶をしながら交流を深めます。宮城での生活の近況や、故郷の復興の動きなど、毎回話題は尽きず、貴重な情報交換の場になっています。

このサロンは、独立行政法人福祉医療機構（WAM）による「平成30年度社会福祉振興助成事業」の助成を受けて開催しているものです。

2018.11.7 作品と一緒に記念撮影

